



# JARA NEWS

January 2018, No. 119

from  
Japan Automotive Recyclers Alliance  
www.jara.co.jp

Published by JARA Corporation  
Tokyo Head Office: Shinawa Bldg. 1-2-2-7F  
Nishinbashi, Chuo-ku, Tokyo JAPAN 103-0027  
Phone: +81 3 3548 3010 / Fax: +81 3 3231 4690



## トヨタとパナソニック 協業、競争力高い 製品へ 角型電池、 資源確保や再生も

トヨタ自動車とパナソニックは13日、車載用角形電池事業の協業の可能性を検討することで合意したと発表した。両社は「業界ナンバーワンの車載用角形電池を実現し、トヨタのみならず、広く自動車メーカーの電動車の普及に貢献すべく具体的な協業内容を検討していく」として、電気自動車（EV）など次世代の電動車を駆動する競争力の高い電池の実現を目指す考えだ。電池用の資源確保、電池の再利用・リサイクルも協業の対象として検討する。国内の自動車と電機のトップ級企業が手を組み、電動車の競争力向上に取り組む。

両社の電池に関するノウハウを持ち寄り、車載用電池の性能、価格、安全性の進化と安定供給能力の確保を念頭に協議

### CO2削減数値(JARAシステム)

リユースパーツ使用によるCO2削減効果参考値  
平成29年11月

# 2,386t

※一般、中・大型含む車を修理する際、新品部品を使用して修理する場合に出るCO2排出量とリサイクル部品を使用して修理する場合のCO2排出量の差がCO2削減数値になります。

一般社団法人日本自動車リサイクル部品協議会と早稲田大学環境総合研究センターがLCA（ライフ・サイクル・アセスメント）の考え方にに基づき共同開発した「グリーンポイントシステム」より参照。

する。

トヨタとパナソニックはこれまで、HV用の電池で協業してきた。1996年にパナソニックEVエナジー（現プライムアースEVエナジー、PEVE）を合弁で設立。累計1200万台のHV用ニッケル水素電池、リチウムイオン電池（LIB）を生産してきた。PEVEの出資比率は当初のパナソニック60%、トヨタ40%から、現在はトヨタ80・5%、パナソニック19・5%に変わっている。

パナソニックは車載駆動用電池の世界最大手で、米テスラとは円筒形LIBセルを生産する「ギガファクトリー」を米国で共同運営するなどの協業関係にある。

トヨタは、米・中・欧など主要市場の環境規制で量産EVの必要性が死活的に高まったことに対応し、2016年12月にEV事業企画室を新設。17年8月にはマツダとEV基盤技術の共同開発を含む資本・業務提携に踏み切り、9月にはデンソーを含む3社で技術開発合弁「EV C.A. スピリット」を設立した。心臓部の電池開発では、次世代の本命と目される全固体電池を200人以上の体制で研究開発し、20年代前半の実用化方針を表明している。次世代電池の生産体制構築は、EV量産のための課題となっている。

◆トヨタ自動車 豊田章男社長 「地球規模の課題解決のため電動車を一層普及する必要がある。基幹部品である車載電池の性能・価格、安全性のさらなる進化と安定供給能力が喫緊の課題になる。資源調達、リユース・リサイクルまで含め、具体的な協業の内容を検討していく」

◆パナソニック 津賀一宏社長 「自動車は産業自体も大きく変革しようとしており、次の100年も激しい変化となる。現状を守るだけでは生き残ることはできない。チャレンジャーの mindset を持って電動車の普及に取り組んでいきたい」

（日刊自動車新聞12月14日）



フロント業務セミナー入門コース

## JARA、静岡で フロント業務セミナー 入門コース 改善へ ディスカッション

JARA（日本自動車リサイクラーズ・アライアンス、北島宗尚社長、東京都中央区）はこのほど、「フロント業務セミナー入門コース」を静岡県裾野市のあいおいニッセイ同和自動車研究所で開催した。

フロント業務の役割や目的を再認識し、接客対応に必要な知識や心構えを習得するもので8社9人が参加した。同セミナーでは一般常識や接客マナーに加え、CS向上、接客話法、クレーム対応、利益の考え方などについて講習を実施。電話対応や受付対応などロールプレイングも行った。ロープレについてはビデオを撮影。参加者全員で映像を振り返った後、客観的な視点から問題点を見だし、改善へとつなげるディスカッションも行った。

◆リサイクル部品、8割以上良いイメージ

JARAは自動車リサイクル部品に対する意識調査の結果を公表した。クラシックカーの展示イベントで一般ユーザーを対象に行ったもので140人から回答を得た。9割以上の回答者がリサイクル部品の存在を認識し、このうち8割以上は良いイメージを持っていることがわかった。一方で、実際に自分の車に使用されることを想定した場合は抵抗感を示す割合が高くなることも浮き彫りになったという。JARAは今回の調査結果を基に一般ユーザーの利用促進につながる方法を模索していく考えだ。

（日刊自動車新聞12月21日）



グラミンググループのムハマド・ユヌス氏(左)と川村社長(右)

## リサイクル3社、 バングラデシュに 整備工場立ち上げ

◆現地グラミンと合弁

中古タイヤ販売を手がけるサンパワー(横浜市港北区、川村拓也社長)など3社は、バングラデシュのグラミンググループと現地で合弁会社を設立し自動車整備工場を立ち上げる。当面は約3千台あるグラミンの社有車の整備を中心に事業を行う。段階的にグループ外の一般入庫も促進し規模を拡大する。

合弁会社の名称は「グラミンジャパンオートワールド」で、来年3月に設立する。日本側からはサンパワーとアップライジング(栃木県宇都宮市、齋藤幸一社長)、Mogee(宮城県亘理町、茂木宏社長)の3社が出資する。整備工場は首都ダッカに建設し、早ければ来年1月にも稼働する。工場規模は未定。従業員はすべて現地で雇用する計画だ。

工場開設を機に、日本側からタイヤ・ホイールをはじめとした中古部用品を輸出する。社有車の補修用として使うほか、グループ外にも販路を求め販売する。バングラデシュ国内を走行する車両のおおよそ8割が日本車ともいわれている。川村社長は「日本流の整備、日本の補修パーツの需要は高い」と自信を示す。

バングラデシュでは廃棄自動車が放置されたままになっているケースが多い。「日本側が持つ解体処理ノウハウを持ち込むことで、バングラ社会に貢献できる」(茂木Mogee社長)ことから、自動車リサイクル事業も手掛ける方針。

出資比率はグラミン側が51%、日本側が49%。

(グラミンググループ)

1983年、バングラデシュの経済学者ムハマド・ユヌス氏が、貧困層を対象に無担保小口融資(マイクロファイナンス)を行う銀行として設立したグラミン銀行を軸としたグループ。教育、医療、エネルギー、情報通信など50社以上で構成する。金銭的な利益最大化ではなく、社会的な課題解決をビジネスの手法で行う「ソーシャル・ビジネス」を推進している。その手法は世界を変える新しいビジネスとして注目を集め、ユヌス氏とグラミン銀行は2006年にノーベル平和賞を受賞している。

(日刊自動車新聞11月28日)

## ELV引取台数が高水準 17年度3年ぶり320万 台超え射程

使用済み自動車(ELV)の引取台数が高水準で推移している。自動車リサイクル促進センター(JARC)がまとめた2017年10月実績(確報)は、前年同月比9.7%増の27万6804台となり、12カ月連続で増加。11月(速報)もプラス実績だった。足元のペースで進捗すれば、今年度のELV引取台数は当初予想の305万台を大きく上回り「年度末の台数レベルによっては325~330万台に達する可能性もある」(JARC)。3年ぶりの320万台超えは間違いない状況だ。

ELV引取台数の前年実績超えが続くのは「高値で推移する鉄スクラップ相場や堅調な新車販売が下支えしている」(JARC)からだ。特に鉄スクラップ相場については足元で3万円を超えており、11月は6回も値上がりした状況にJARC担当者も驚く。

鉄スクラップ相場は若干の上下動はあるものの、昨年度後半から高値が続いている。このため「廃車の買値が付きやすくなり、強気に買い付けられる」。相場は水物であるため予断を許す状況ではないが、少なくともここ1年はリサイクル事業者の経営を支えてき

た。「昨年と比べると倒産したとか、会社を閉めるだとか、暗い話を聞かなくなった」(業界団体幹部)ことはその証だろう。

◆産業廃棄物の処理増加も背景に

もう一つの上振れ要因が堅調な新車販売だ。10、11月は日産自動車とSUBARUの完成検査問題を背景に前年対比実績は減少したものの、それでも9月までは軽自動車を含む新車販売全体では11カ月連続で前年比プラスで推移した。「ELVが発生するのは新車販売から2、3カ月程度ずれ込むため、当面は前年実績を上回る可能性が高い」(同)と期待を寄せる。

例年、破碎工程の仕掛件数は新車販売に連動して3、4月にピークを迎える。その後は減少に向かうのが通例だが、今年はピークのまま推移している状況だ。「業界で言ういわゆる夏枯れがない。これは仕掛件数の集計を取り出した10年以降で初めて」(同)のことだ。

ELVの引取台数が増加していることに加え、産業廃棄物の処理が増えていることが背景にあると見られる。JARCによると「東海地区ではキャパオーバーで引き取れない状況が発生していると聞いている。産廃も増えていることでELVに手が回っていない」状況も散見されるという。業務量の増加で人手不足も顕在化している状況だ。

JARCは、17年度のELV引取台数について305万台を想定している。足元のペースで推移すると325万~330万台に達する見通しだ。3年ぶりの320万台超え、前年実績超えは14年度以来4年ぶりとなる。

14年度は前年度比3.0%減の333万1901台、15年度は同5.3%減の315万6459台、16年度は同1.9%減の309万6790台だった。

(日刊自動車新聞12月9日)

## 自研会が25周年、 第100回例会・ 祝賀会開催

自動車補修部品研究会(自研会、栗原裕之会長)は4日、都内のホテルで「第100回・25周年祝賀会」を開催した。

自研会は自動車リサイクル部品の認知度向上と普及、啓蒙を図るため、リサイクル業界を横断する勉強会として1993年に設立された。例会を年4回開催しており、同日に開催した例会で第100回目を迎えた。

栗原会長は会の冒頭「25年前、自研会は9社でスタートした。25年という歴史の積み重ねは皆さんの多大なるご協力があり今の自研会がある。101回目からは新たな自研会としてリサイクル業界の活性化に寄与したい」と挨拶した。

自研会は、国内の自動車中古部品商で常に業界の一步先を進み「21世紀の業界作り」を目指す自由な勉強会。各グループの活動に影響を与えないよう、発言の自由、行動の自由。商売の自由をモットーにしている。

設立は93年6月18日。第1回設立会議を開催し、呼びかけ人の清水商会(現・榊ユーパーツ)の清水信夫社長を会長、河村自動車工業の河村二四夫社長、三重パーツの齋藤貢社長を副会長に選任した。

年4回行う例会では業界内外からゲストを招き講演など実施。スウェーデンやドイツ、ロシア、ベトナム、ドバイなど多くの海外視察も行った。(日刊自動車新聞12月7日)



「ありがとう」を  
たくさんもらえる会社へ

JARA  
Japan Automobile Recycle Association

<http://www.jara.co.jp/>



## Dismantling process flow chart

How the Car Dismantling machine works

### 1. Receiving and evaluating cars

Incoming vehicles tested on dynamometer to check engine condition



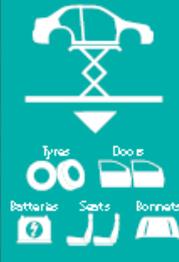
### 2. Collecting fuel, fluids and chlorofluorocarbon gas

Remove fluids such as fuel, various types of oil and chlorofluorocarbon gas



### 3. Parts collection

Efficiently collect reusable parts



### 4. Collecting undercarriage parts and engines

The car is turned to safely collect engine, exhaust system and suspension parts



### 5. Car dismantling process

After pre-processing, the car is sorted into raw components such as ferrous, non-ferrous and plastics



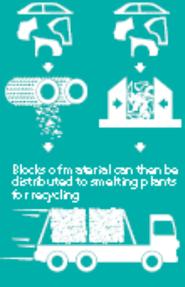
### 5. Processes after removing parts

Once thoroughly cleaned, the parts become good quality recycled parts



### 6. Volume reduction processes

After treating, the scrap cars are cut up and crushed or pressed into materials that meet industry needs



## The Evolution of car dismantling industry by Kobelco

Four times\* the vehicle dismantling capability compared with hand dismantling.

\*In one day (Kobelco test figure)

15 vehicles >

One operative working by hand.



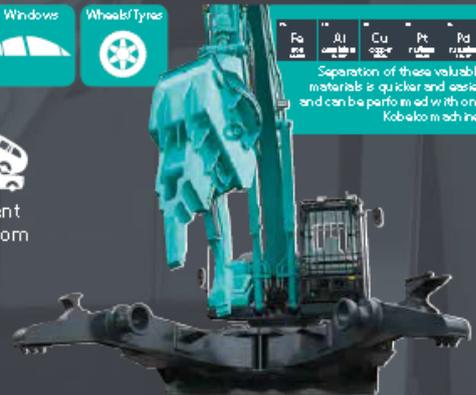
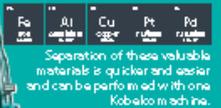
60 vehicles >

One operative in a Kobelco Car Dismantling machine.



The machine's special attachment is designed to strip materials from End-of-Life Vehicles (ELV) safely and thoroughly

Improved recovery rate of rare earth metals



# SK210D



# SK210D



# SK 135SRD



コベルコ建機株式会社  
www.kobelco-kenki.co.jp/

For Japan

成都神鋼工程机械(集团)有限公司  
www.kobelco-jianji.com/

For China

(주)삼정건설기계  
www.samjung-kenki.co.kr/

For Korea

KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY U.S.A. INC.  
www.kobelco-usa.com/

For North America

KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY AUSTRALIA PTY LTD  
www.kobelco.com.au/

For Australia

KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY EUROPE B.V.  
www.kobelco-europe.com/

For Europe

FAIR FRIEND ENTERPRISE CO.,LTD.  
www.ffg-tw.com/

For Taiwan